

いくつ
ご存知ですか？

龍ヶ崎市指定文化財を紹介します！

Part.2

■問い合わせ：生涯学習課市民学習推進グループ ☎内線 234

わがまちの誇りであり、後世までずっと残していきたい財産である指定文化財。今回は、現在登録されている中から3件を紹介します。

※通常は一般公開されていないものもありますのでご注意ください



1 貝原塚おごど囃子

(かいはらづかおごどばやし)

【種別】無形民俗文化財 【所在地】貝原塚町 2081
【管理者】貝原塚おごど囃子保存会

寛永年間（1624～1643）の頃から、旧暦の4月15日にその年の五穀豊穡と悪病退散・天下泰平を、村の鎮守である八坂神社に祈願する「花見おごと（花見祭礼）」が行われてきました。

その後、この祭礼が野良仕事の「おこと始め」の行事となり、集落ぐるみで休みを取り、若い衆が夜の更けるのも忘れて、笛・太鼓を打ち鳴らして踊ったといわれています。これが「おごど囃子」として現在まで受け継がれ、地元・貝原塚の八坂祇園祭礼や撞舞の際には、その音色が欠かせない存在となっています。

2 板碑（いたび）

【種別】考古資料 【所在地】貝原塚町 2228
【管理者】金剛院

板碑とは、亡くなった人たちの供養のため、あるいは生前に死後の冥福を願って、鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに造られた板状の石碑です。

この碑は弘長4年（1264年）に建立されたもので、阿弥陀如来・観世音菩薩・勢至菩薩の種子（梵字）や、観無量寿経の一節などが刻まれています。

明治25年（1892年）頃、貝原塚南部でこの板碑が橋として使われていたのが発見されました。当時、その近辺で火の玉が目撃されたり、奇怪なことが続いたりして、村人たちが「化け物石」と恐れられたため、金剛院の境内に移されたという逸話がありますが、元々どこに建っていたのかは不明です。

3 金剛力士立像（こんごうりきしりつぞう）

【種別】彫刻 【所在地】城ノ内 5-22 【管理者】桂昌寺

金剛力士は別名「仁王」とも言われます。元々は金剛杵（こんごうしよ 仏敵を退ける武器）の威力を人格化させたもので、仏陀を守護する力士でしたが、仏法を守護し邪悪を退ける像として寺門や須弥壇の左右に安置されています。通常、大きく口を開けた「阿形像」と、口を閉じた「吽形像」の2体1組となっており、「阿吽の呼吸」という言葉の語源としても知られています。

この力士像は、かつて明治期の廃仏毀釈の影響で野に捨てられていましたが、それを惜しんだ寺崎弥右衛門氏がしばらく自宅で祀っていました。その後、桂昌寺に移され、現在に至っています。